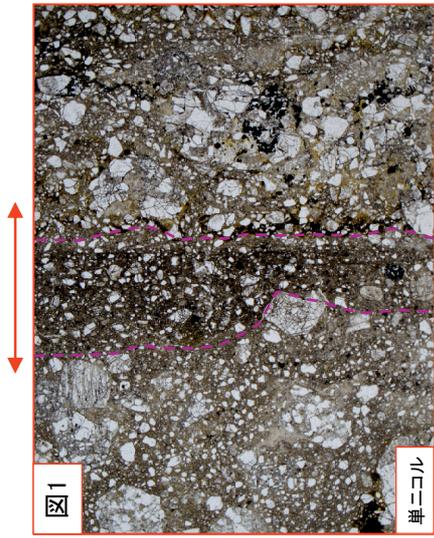
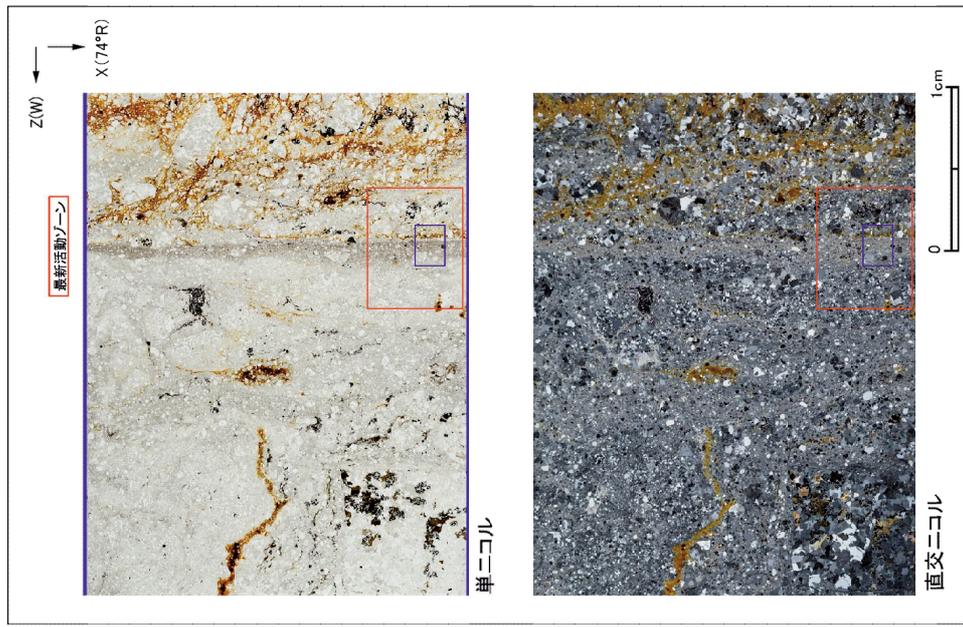
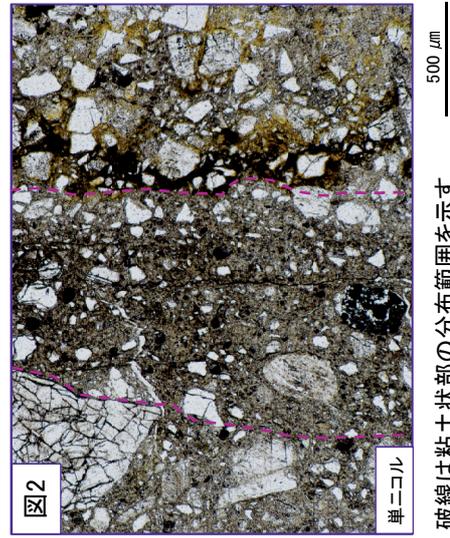


・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

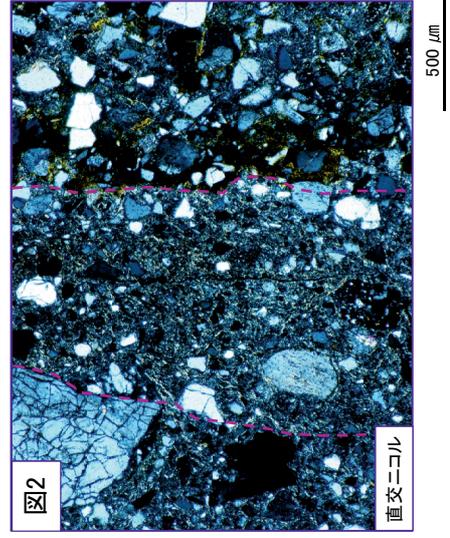
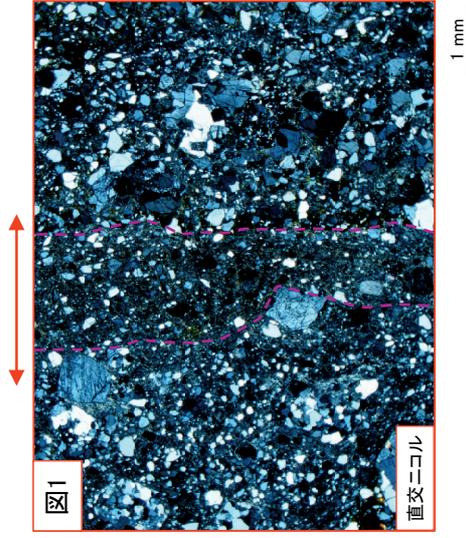
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す
赤矢印は粘土鉱物の分布が漸移的に変化する事を示す



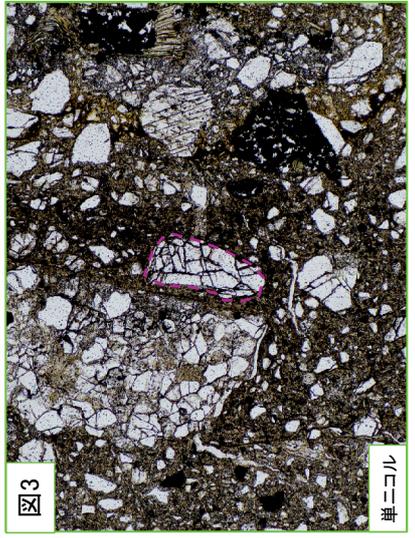
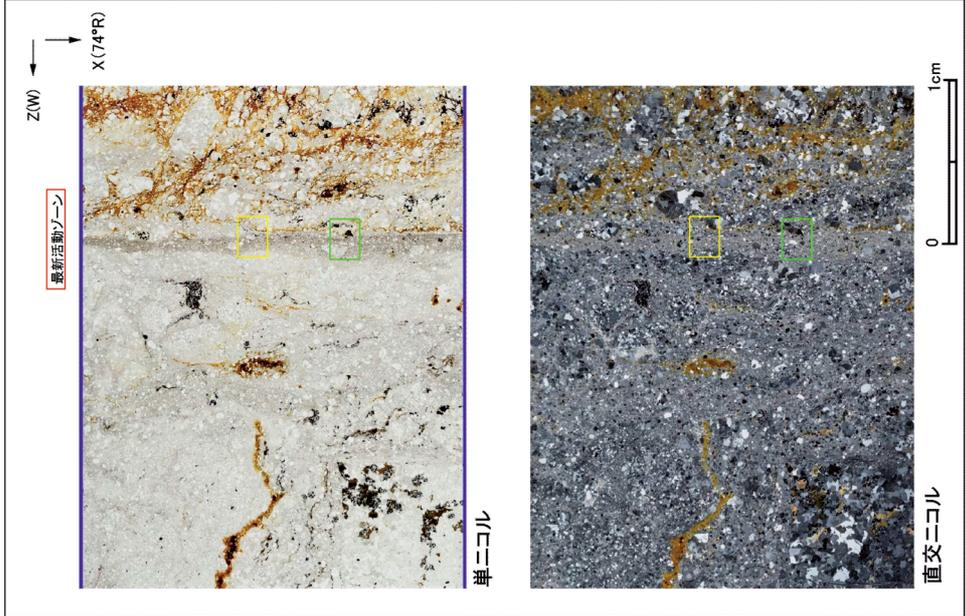
破線は粘土状部の分布範囲を示す



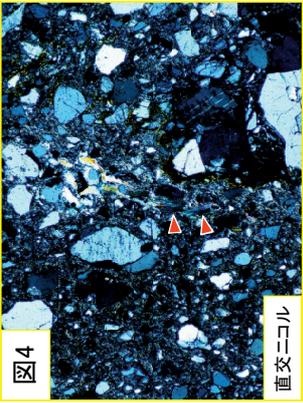
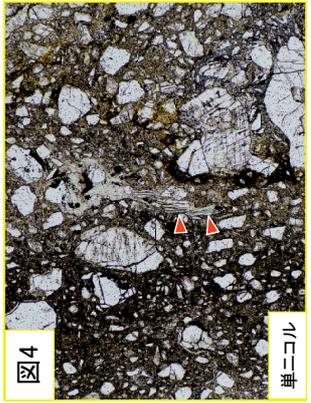
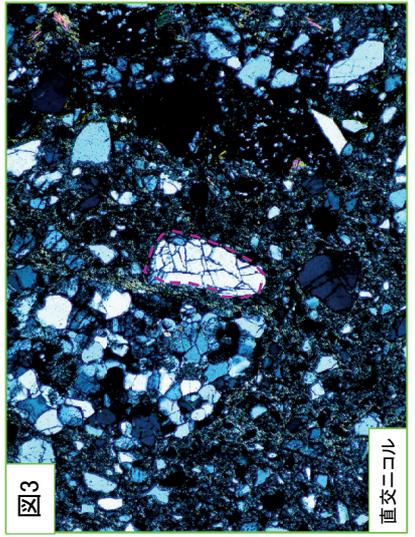
第7.4.4.373図 (4)

破碎部性状 H31-R-1 深度73.70~73.83m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

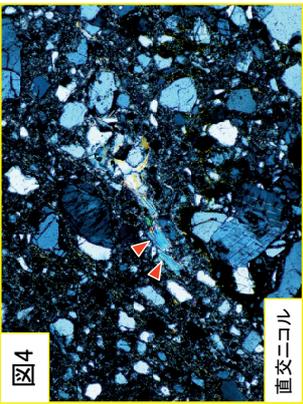
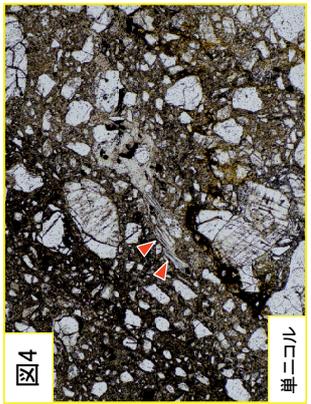
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



ステージを時計回りに約40度回転



赤三角は屈曲箇所を示す

赤三角は屈曲箇所を示す

(肉眼観察結果 深度73.83m)

- 深度73.83mの「明赤灰～灰白色粘土を挟む」と記載の箇所については、粘土は軟質で、一部不連続であるが、直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- ジグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「明赤灰～灰白色粘土を挟む」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
 - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した「明赤灰～灰白色粘土を挟む」と記載の箇所については、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサイトと評価した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	— (0.6)	— (有)

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「—」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

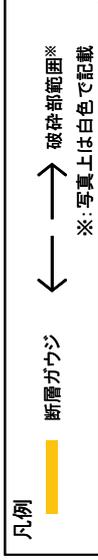
・深度74.57～74.58mの「砂混じり粘土状」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度74.58～74.68mの「砂・粘土質角礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●74.57～74.68m：破碎部
 74.57～74.58m：明赤灰色の砂混じり粘土状部(Hc-1)。上端59°で波打つ、下端62°で直線的。幅6mm。軟質。
 74.58～74.68m：砂・粘土質角礫状部(Hb)。下端の傾斜67°で不明瞭。やや軟質で灰白色粘土が網目状に分布する。灰白色を呈する。

コア写真



連続性・直線性が良い明赤灰色の砂混じり粘土
 灰白色粘土が網目状に分布する



青枠部拡大

0 5 cm

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

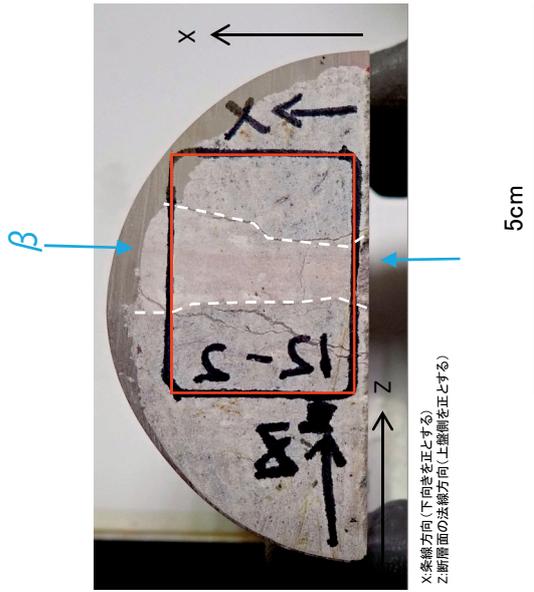


凡例

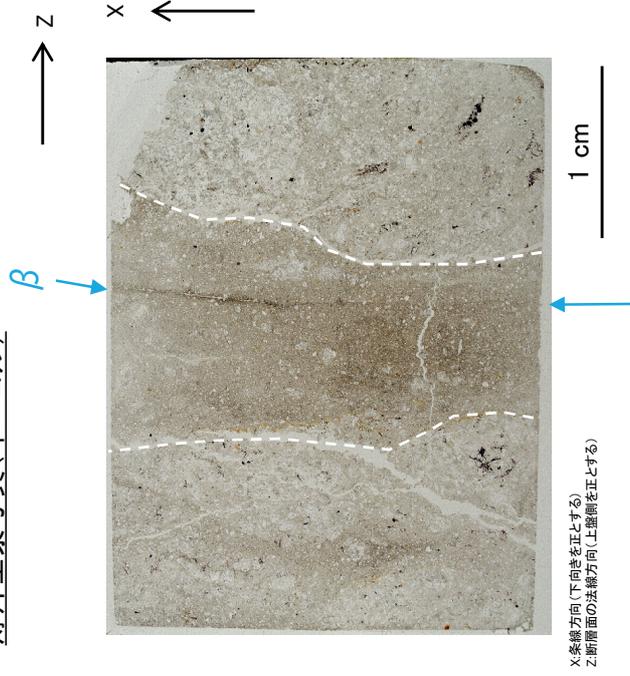
断層ガイジ ← → 破砕部範囲※ 断層面

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



薄片全景写真(単ニコル)



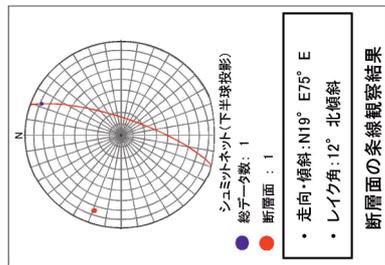
凡例

断層面

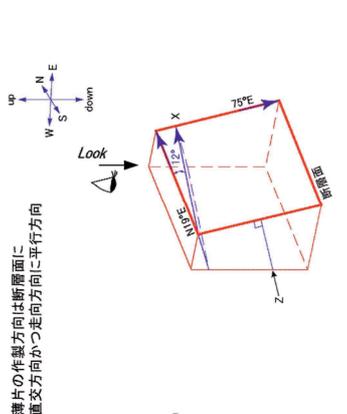
----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

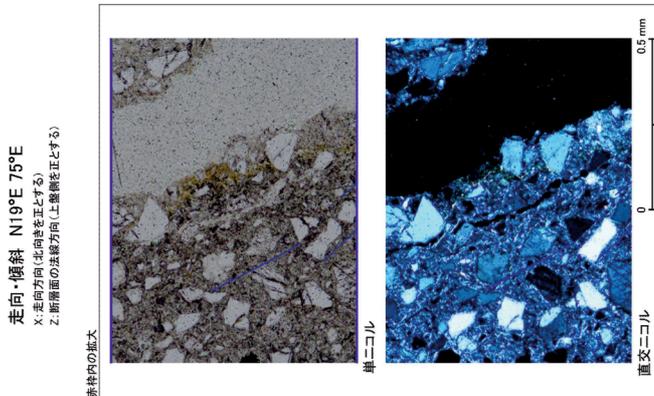
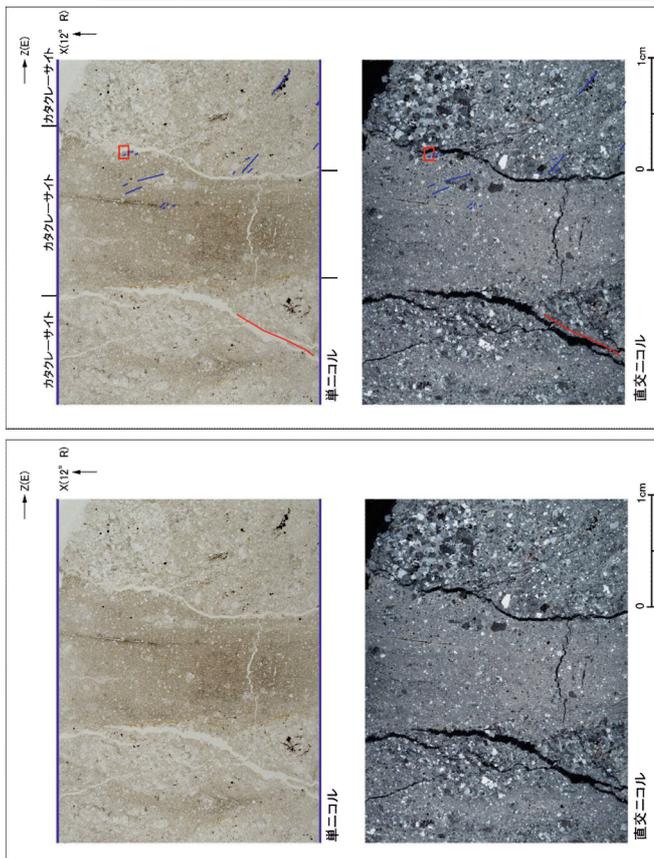
- ・ H31-R-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・ 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトと判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
 - 岩片は少ない。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



※断層面 β は最新活動面



走向・傾斜 N19° E75° E
 X: 走向方向 (北向きを正とする)
 Y: 断層面の法線方向 (上向きを正とする)



凡例	
	断層ガウジ
	断層角礫
	カタクレーサイト
	R面
	P面